

ロータスルート さあ、つながって行こう! みんなで花を育てよう!!

日蓮宗

正中山別院 護国山妙法華院

〒652-0816 神戸市兵庫区永沢町4-5-8  
TEL(078)575-2608 FAX(078)577-7651  
kobe@myohokkein.jp

2017年(平成29年)5月27日 今回の「れんこん」19号は、ナ・ナ・ナント「ろおたす」からの通算400号!!!



http://www.myohokkein.jp/

ろおたす第1号 山主法話より

「ろおたす(LOTUS)」とは、ギリシャ神話ではその実を食べると世の悩みを忘れる「忘憂樹」であり、実在の植物としては「蓮の花」です。蓮の花ー蓮華は泥の中に生えながら濁りに染まぬ美しさのため、ことにインドでは宗教的なシンボルとして愛され、仏教でも最高の教えに、この名がつけられています。私たちが唱える「なむみょうほうれんげきょう」とはすなわち「南無・妙法・蓮華・経」で、「すばらしい教えの白蓮華の教典に帰依します」ということで、妙法蓮華経(法華経)が英訳されるときは、いつも「ろおたす」が使われます。「ろおたす」とは「平和な蓮の花」、深い意味は「法華経に表された真実のありかた」を指しています。じつは、25年前に「LOTUS」という小冊子を発刊し、4号まで出したことがあります。いずれ復刊するつもりですが、そのまとまった冊子の方は「LOTUS」、この奉行会の交流誌は「ろおたす」です。皆さんの手で育ててください。

山主法話

報恩の花をひらかせよう

一 号

私たちが、お題目を唱えることによって、ご先祖の霊を成仏にお向けることができ、自分自身も信仰のよりどころをもって生活できるのも、お題目を唱えることを始めてくださった日蓮聖人のご恩であるし、それを伝えて信行事の中心となってお寺があるおかげといえましょう。そのご恩がえしの、報恩の信行と寺づくりを、蓮の花のように美しく開かせようではありませんか。報恩の花を開かせるためには、「なむみょうほうれんげきょうと唱えよう」これしかありません。あなたが、お子さんが、お孫さんが、みんなで毎日唱えましょう。妙法華院の檀信徒とその家族があらわれて、すばらしいお寺が建って、その中で私たちは宗教的な喜びを味わったり、社会奉仕の生きがいを得たり、大きなご利益を得て、子孫にもそれを遺してやることのできるでしょう。(新聞智照)



1段目左はB5版45頁。1号から380号まではB5版6~16頁。3段目左「法燈継承式」からB4版4頁カラー。387号は先代葬儀特集臨時号。393号からA3版4頁に変更し、現在に至る。

ろおたす

第400号 2017.5.27 妙法華院

主要目次
山主法話 第四世日明 第五世日修
新年祝辞会 小島英生
寒修行托鉢 杉山雅成
節分星祭 高瀬守雄
おせがき法要 枝澤 實
お花まつり 寺内京子
開山会法要 山田まさ子
びーぶる(徳平章さん)
ぶつちやげ公開講座(布教師会)
合掌のはなし(宗務院伝道部)

法華弘通の旗印として

住職 新聞智考

当山の寺報は、先代の「ろおたす」から現在の「れんこん」にかけて今号で、記念すべき四〇〇号を迎えた。創刊された昭和四四年は、月刊交流機関誌としてスタートしており、当時は宗祖七〇〇遠忌に向けた報恩奉行会として発行され、その後「妙法華院広報委員会」の編集を経て、現在の形になっている。

先代は、この寺報「ろおたす」に非常に強い思い入れを持っていたので、阪神大震災の時でも休刊すること無く、寺の被害や檀家の罹災状況を伝えながら、毎月発行し続けた。もはや当山の檀信徒にとつては、当たり前前になつてこの寺報ではあるが、一寺院が毎月これだけの容量の寺報を長年発行し続けたというのは、日蓮宗内でもナカナカ無い事だと思ふ。先代住職の考えや近況を伝える「山主法話」に始まり、日蓮聖人の御遺文を解説した西村智誠上人の「聖語」は、智孝の「なつてたつて御遺文」に引き継がれた。山崎雅祥上人が檀家を紹介する「びーぶる」欄。「阪神大震災と私」シリーズは、叢書として本にまとめられて貴重な体験を生々しく後世に残す。各行事の感想報告を檀信徒が寄稿し、六委員会の会議報告や会計表を常設していた事も斬新であった。今でも寺の歴史が細かく判る貴重な資料として大切に保管している。

私に法燈を継承させて頂いてからは、負担の重い月刊を廃して、冊子型から新聞型へと変更し、カラーを採用して檀信徒に対してもっと軽い読み物に変更した。今、巷ではSNSやフェイスブック、ホームページやユーチューブ等、スマホやPCから誰にでも情報発信が気軽にできるようになった。このペーパーレスの時代に、こうした寺報誌の存在に「どういった意義があるのか」を自分自身に問いながら、日蓮宗新聞社と共に歩み続けている。師匠の遺志を継ぎながら、ノーマンソをフル回転させて今日も私は筆を進めている。いやキーボードを叩いているのである。

人にやさしくキンチョール

2017年3月30日(木)

法要と披露宴の司会進行という大役を任された一日が終わってホッとしている。こうした大きなイベントの場合は、ミスが無いようにと、皆がビリビリしている。だが当日は、必ずと言って良いほど想定外の事が起きてくる。その時、臨機応変に対応するには、心のどこかに必ず余裕が要る。緊張がピークに達してテンパっていると、パニックに陥ってしまう。自分の所の行事なら失敗もへっちゃらだが、本山の手伝い...というのが、これまた緊張に輪をかけるのだ。私自身、昨日はヒッターもあればエラーもあった。ミスについては、「貰首さま。申し訳ございませんでした。」と、ココで謝らせていただきます。m(\_ \_)m



2017.3.31 神戸新聞夕刊

二〇〇二年 新年祝祷会 元日に菩提寺へ、仏天加護の証

小 脇 英 生

1月1日の新年祝祷会に参加したのは今年で9回目になりました。智孝さんとは、小学生の頃から友人で、お彼岸やお盆の時などに親しげに話しているのを見て、不思議に思われている方もおられるのではないのでしょうか。妙法華院へ元日にお参りするようになったのは、自分の子どもを亡くしてからです。混乱した頭の中で「新聞（呼び捨て失礼）へ電話をしなれば」と、そればかり考えていた事を思い出します。

初詣といえば高校時代の智孝さんと、こんな思い出があります。悪友達と申し合わせ、大晦日から元日に日付が変わると同時に家を出て、楠公さん（湊川神社）から三ノ宮の生田神社まで毎年みんなで初詣に行っていました。その境内でのエピソード……。智孝さんは、柏手を打って二礼二拍手する私達の横でお題目を唱えるのです。それも大きな声で……。当時の私は思わず飛び退いたのを覚えていますが、いま思えば納得できる行動ですね。

智孝さんはお坊さんになる事を決めた年から「新年最初のお参りを余所の神社仏閣にするわけにはいかな〜という理由で参加しな



朝勤は仏と私たちのWinWinな関係



ハゲラッチョーさん

二〇〇二年 寒修行托鉢 太鼓の音に、他宗ですがとお供養

杉山 雅 威

今年のはじめ、新年会の時に寒行への参加を勧められました。「ろおたす」に日程が載っていますので、午後五時半の出発に間に合うよう、白の行衣と数珠を持参して来て下さい。と言われ、荒田・長田・西灘・垂水方面の四晩に初めて参加しました。

行衣を着て団扇太鼓を持ち、お寺の本堂にてお経をあげ、新聞住職上人の見送りを受けて出発し、智孝上人、山崎上人の後に続いて行きました。寒行の太鼓のリズムは独特なので、普通の法要でお題目を唱える時の太鼓とは違って、目は智孝上人



60回連続音動記録更新中の杉山氏



夜の街(クーゲル)をひたすら歩くベガツチキョウ



ラーメン・ツケメン・ぼくイケメン

おきらく日記 M 2017年1月15日(日)
ただ今、午前5時半。昨夜は寒行でしたが初日からナカナカキョレツでした。しかし幸い、こころ兵庫区辺りでも雪は降りましたが、帰ってきてからだったので助かりました。私は毎朝、寺の廻りを掃除しています。さすがに今朝は雪が残っていて、ゴミもアスファルトに凍ってくっついてます。そして今から水行。健康に感謝しつつ冷水で身を浄めます。嫌な気持ち半分。楽しみ半分。



北辰妙見大菩薩



年男・年女の方に福升授与



マツコの知らない祈祷の世界



星まわりと津波を語るチコウ

一九九六年 節分星祭 年男の縁ではじめて行事に参加

高瀬 守 雄

今年の一月及び二月の初旬は寒さの厳しい日が多くありましたが、二月三日の節分星祭祈禱会の日には、おだやかな晴天で子年生れの年男・年女(今年も私も含めて六名の参列)の皆様をはじめ、多くの参詣者と共に参加させていただきました。豆まきの「予行演習」の後、緊張気味に待つうち、午後一時に住職上人、智孝師、山崎師が内陣にあらわれてすぐに読経がはじまりました。

朗々たる高音、早口で力強い読経。このような行事にはじめて参詣させていただいた私は圧倒された感服致しました。お詣りされている皆様はお上人と一緒に、お経についてお話を聞かせていただきました。私には早口に口がつかないけれど、ただお経本の文字を目で追っただけで、長いお経について特別祈祷と一般祈祷がおこなわれました。堂内いっぱい木剣の音が響きわたり、お上人が願主のお名前をひとりずつ読みあげられて祈禱をいただきました。その後参詣者全員に法楽の頭や肩にご挨拶をあげていただきました。

さいごに私たち年男・年女が内陣に上がりご宝前で行衣を授与されました。昨年は震災のためにご祈祷でしたが、ことしはお上人をはじめ七名で「令百由旬内無諸衰患 受持法華名者 福不可量」と唱えながら元気よく豆まきをしました。本堂のほか此経離持坂、道場、祈禱所、納骨堂を回り、最後に屋上にあがって四方に豆をまいて散会となりました。今年一年良き年でありませう。



鬼も豆のチョコ!

寺債金会計 12~3月 2016年12月1日~2017年3月31日
取入(円)
志納金より 0
寺債金 0
受取利息 48
収入小計 48
11月から繰越金 10,111,978
合計 10,112,026
支出(円)
志納金へ 0
返還金 900,000
支出小計 900,000
新年度への繰越金 9,212,026
合計 10,112,026

建設志納金会計 12~3月 2016年12月1日~2017年3月31日
取入(円)
志納金 2,974,000
現金 800,000
郵便振込 341,086
銀行振込
利息 135
信託志納金 3,000
自家増東加金 1,500,000
維持会 800,000
実行 341,086
収入小計 5,624,221
11月から繰越金 26,590,039
合計 32,214,260
支出(円)
借入金返済 3,332,000
振込手数料 0
支払利息 346,844
支費C 3,000
題目C 3,000
自我修行 3,000
A型1基 1,500,000
B型1基 800,000
実行 341,086
支出小計 3,678,844
新年度への繰越金 28,535,416
合計 32,214,260

建設計志納者 (二〇一六年十月~二〇一七年三月)
一月
白井 尚子 6,000円
枝津 賢 4,000円
片岡美代子 6,000円
岸本 一良 6,000円
新聞 智孝 8,000円
助川 恭子 6,000円
寺島 恭子 6,000円
安藤 敏子 6,000円
吉田和夫(二) 6,000円
木会計 4,000円
合計 99,700円
御宝前・お供え
十一月
相内 三郎 3,000円
片岡 博子 3,000円
岸本 美代子 3,000円
小林 卓二 3,000円
田中 義孝 3,000円
長谷川 照子 3,000円
三丸 秀文 3,000円
森 延次 3,000円
兵庫東部布教部 3,000円
合計 30,000円
十二月
大橋ヒデ子 3,000円
大橋 隆子 3,000円
奥田 悦子 3,000円
長谷川 照子 3,000円
金丸 美子 3,000円
木住 多美子 3,000円
空南 義孝 3,000円
後藤 秀幸 3,000円
田中 美美子 3,000円
水尾 嘉基 3,000円
中尾 美子 3,000円
山内 紀枝 3,000円
山内 正子 3,000円
山崎 忠博 3,000円
山田 まさ子 3,000円
浄光寺 小笠原 3,000円
福屋工務店 3,000円
合計 36,000円
寺報協力金
高野 佳之 3,000円
三好 三郎 3,000円
合計 6,000円
信託志納金 (二〇一六年十月~二〇一七年三月)
一月
大久保 順子 1,000円
片岡 美代子 1,000円
後藤 秀幸 1,000円
水尾 嘉基 1,000円
三月
大橋ヒデ子 1,000円
大橋 隆子 1,000円
小笠原 健司 1,000円
砂子 正和 1,000円
豊田 徹次郎 1,000円
木田 謙次 1,000円
大坂三馬宗務所 1,000円
大坂三馬宗務所 1,000円
幸松寺 掛下 忠輝 1,000円
兵庫東部布教部 1,000円
相内 三郎 1,000円
岸本 美代子 1,000円
小林 卓二 1,000円
田中 義孝 1,000円
長谷川 照子 1,000円
三丸 秀文 1,000円
森 延次 1,000円
兵庫東部布教部 1,000円
合計 13,000円
二月
大久保 順子 1,000円
片岡 美代子 1,000円
後藤 秀幸 1,000円
水尾 嘉基 1,000円
合計 4,000円

### 一九九七年 おせがき法要

枝澤 實

おせがき法要は、西村上人が体調をくずされて入院中。智孝師も日蓮宗布教研修所に入所のため、お上人様と山崎師、松本上人といつもと少し離れた式衆方による読経の中、厳肅に法要が営まれました。

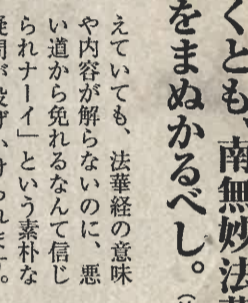
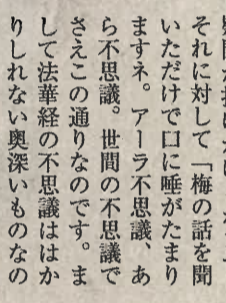
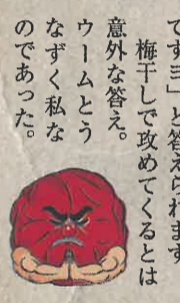
長年お上人様はじめ皆さんにお世話になった母が三月八日に亡くなり、今年少し寂しい思いのお詣りでしたが、新しい白木の初盆のお塔婆に瀧水、焼香し冥福を祈りました。

母枝澤さだのは神戸大空襲で家を焼かれ、その後心臓弁膜症を患い、神大附属病院主治医のお話では、「ヒビの入った心臓」をかかえながら私たちを立派に育ててくれました。人の世話を苦にしない明るい、話し好きな母でした。学生時代にバレーボールの選手であったこともあり、スポーツが好きで、バレーはもちろん野球、相撲などを熱心にテレビで見ていたのを思い出します。孫がサッカーをはじめると、サッカーも見ようになり、聞きなれないルールも覚えてなかなか知識力旺盛な一面がありました。



今かがゆえに汝がために涙く

雑華・抹香・焼香・塗香・衣服・瓔珞・幢幡・宝蓋・伎楽・歌頌をもって、七寶の妙塔を禮拜し供養せん。



戦後ほどの家庭もそうですが、何もない中から苦勞をして家族を守ってきた生活体験から「人から受けた恩を忘れられたアカン」と常々意見されてきました。当時は煙たく思ったりしたが、意見をしてくれる人がいなくなった今、寂しい思いがします。「親の意見とナスビの花は千に一つが無駄がない」と言われるが、しみじみとその重みをかみしめる思いです。

通夜の席でお上人様から「人の死は悲しい寂しいものであるけれども、高齢で亡くなった人、幼くして亡くなった人もその人なりの役目を果し、他の人に何かを残して去りゆく」とのお説法(参列の方から大変好評でした)を伺い、小林一茶が子ども誕生の祝いの席で詠んだ「親は死ぬ子は死ぬあとで孫は死ぬ」の句を思い出し、何かモヤモヤが晴れる思いがしました。

「人の死は悲しい寂しいものであるけれども、高齢で亡くなった人、幼くして亡くなった人もその人なりの役目を果し、他の人に何かを残して去りゆく」とのお説法(参列の方から大変好評でした)を伺い、小林一茶が子ども誕生の祝いの席で詠んだ「親は死ぬ子は死ぬあとで孫は死ぬ」の句を思い出し、何かモヤモヤが晴れる思いがしました。

### 一九九七年 お花まつり

寺内 京子

花冷えもなく暖かい日にお恵まれた四月八日、お釈迦さまの誕生日をお祝いする花まつり(釈尊降誕会)がおこなわれました。

お寺の正面入口には大きな白象が置かれ、その上にお釈迦さまが右人差し指を天に向け、お立ちになつていらっしゃる仏が安置された花御堂がきれいにおまつりされておりました。小さいヒシヤクで甘茶を御身体にかけて供養させて頂き、何十年ぶりか甘茶を頂きながら、花御堂の屋根に飾られた雪柳、椿、チューリップ、フリジアなどの彩りにみとれておりました。

十時半からの唱題のつどいは出席できませんでしたが、三時頃までお寺の前を通る人や、学校帰りの子どもたち、幼子を連れられたお母さん方に甘茶の供養をし、恒例の甘茶あめのほかに今年はお花(生花)をおく



妙解院日明上人の祥月命日と釈尊降誕会



今年はお花まつりから学校帰りの子どもたちも甘茶を飲んでね

### 二〇〇三年 お花まつり

新聞 世海

おしゃかさまのたんじょうびで、花のタネをくばりました。あめでいまいしかあげられなかったけど、あめがやんだらいつぱいもらってくれました。あまちゃは、そんなにのんでくれないけど15分くらいは食べていると、どんどんあまちゃをのんでくれて、わたしたとときに「いくら?」ときかれた。「ただです」といいたら「ちょっとしりあいにしえてくる」といつていました。ほくは、みどりいろのふうせんをもらって、ゆうくんはあおいいろのふうせんをもらっていました。

ふうせんには「おはなまつり」と、かいていました。いまほくは、そのふうせんをふくらまして、これをかいていきます。

スキキョウをやらう  
バグドリームス

### 一九九七年 開山会

山田 まさ子

四月十三日、お寺の開山会がおこなわれました。この日娘の早香が、お上人方が入堂される前の献燈献花の天童のひとりとして参加させて頂いたことになりました。

今年はお天候が不順で、四月というのに二日ほど前まで雨模様のはだ寒い日が続き、せつかくの桜も、お花見にとつて一番良い時期に雨が降ってしまったので残念でしたが、この日はうつつかわつておだやかな良いお天気です。このところ花粉症でクシャミと涙目に悩まされていた私も、おかげで心も軽くなりました。娘と二人お寺に向かいました。

十一時すぎから、他の天童さん(大橋麻由、久保 愛、小脇桃子、新聞友祐、馬場瑞穂のみなさん)とともに献燈献花のリハーサルです。智孝上人の特訓を受けて本堂でのリハーサルも終わり、婦人会の方々が作って下さった昼食をいただきました。

(タケノコ御飯がおいしかったです)

開山会の法要がはじまりました。瀧水、散華のあと献燈献花です。何度みてもハラハラします。そのあと

さあお題目について何回か続けて触れてきました。「なんか解ったような、解らんような...。解らんところがどこか解らん?」そんな気持ちのアナタへ明解な一言。「理解できなくても良い。ただひたすらお題目を唱えれば悪い道から免れますよ」という日蓮聖人のありがたいお言葉。

この御遺文は問答形式になつていますが、最初の方の問いかけに、「水を、水みずと呼んだだけでは喉の渇きは癒やされない。ただただ南無妙法蓮華経と唱

なんてって御遺文 させる解なくとも、南無妙法蓮華経と唱るならば悪道をまぬかるべし。(法華題目抄道三九三)

えていても、法華経の意味や内容が解らないのに、悪い道から免れるなんて信じられナイ」という素朴な疑問が投げかけられます。それに対して「梅の話をお話だけして口を噛みかたまります。アキラ不思議、あら不思議。世間の不思議でさえこの通りなのです。まして法華経の不思議はかりしれない奥深いものなのですヨ」と答えられます。梅干しで攻めてくるのは意外な答え。ウームとうなずく私なのであった。

理屈、理論を勉強することとはもちろん大事なことですが、しかし、もっと大事なことは「信」を持つということなのです。聖人の教えの根本は易行です。あえて題目修行を勧められるのは、病院のベッドの上でも、受験の直前でも、出産直後の母親でも唱える事が出来るから。そこに仏様との一体感が生まれ、法悦を感じる事が出来るのです。煩惱に犯されかけているわが子にお題目を唱えさせてあげます。そう三つの子でも唱えられるのです。(新聞記者)

四月十三日、お寺の開山会がおこなわれました。この日娘の早香が、お上人方が入堂される前の献燈献花の天童のひとりとして参加させて頂いたことになりました。

今年はお天候が不順で、四月というのに二日ほど前まで雨模様のはだ寒い日が続き、せつかくの桜も、お花見にとつて一番良い時期に雨が降ってしまったので残念でしたが、この日はうつつかわつておだやかな良いお天気です。このところ花粉症でクシャミと涙目に悩まされていた私も、おかげで心も軽くなりました。娘と二人お寺に向かいました。

十一時すぎから、他の天童さん(大橋麻由、久保 愛、小脇桃子、新聞友祐、馬場瑞穂のみなさん)とともに献燈献花のリハーサルです。智孝上人の特訓を受けて本堂でのリハーサルも終わり、婦人会の方々が作って下さった昼食をいただきました。

(タケノコ御飯がおいしかったです)

開山会の法要がはじまりました。瀧水、散華のあと献燈献花です。何度みてもハラハラします。そのあと



内に、地涌の使命を自覚し



外に、不経の振舞いを立てる

3月16日 當山の大大大曼荼羅本尊の前で、三島管内各御尊聖が依帯に七条を纏って、阪田兼光所長さまは慶讃文を捧げる。式衆から雅楽の生演奏が奏でられ、聲明師は伽陀や高祖讃を献ける。修法は7名で法楽加持を行う。そんな大法要の大導師を大講師の私が、二人の脇導師を従え、水色で勧めさせて頂いた。入寺の時は、もつとシンプルで、こんな大きな法要の導師は初めてである。幸せな経験を積ませて頂いた一時で、御心より厚く御礼申し上げます。

組織で動く三島宗務所

おせがき法要

3月20日(祝) 午後1時～4時  
お坊様供養 2000円

4月16日(祝) 午後1時～4時  
開山会法要 4000円

4月8日(祝) 午後1時～4時  
花まつり 2000円

當山のチラシは神センス? 権センス?

いつもより余計回っております。

2017年4月9日(日)

花まつりの行事を3つこなした。一つはウチの花まつり。先代の祥月命日でもある。4年前の今頃は「たいへんだったなあ」と、しみじみ...。一つは、市仏の花まつり。文化ホールで知事や市長も参列する盛大な行事。久しぶりにスポットライトを浴びる...。もう一つは、保育園での花まつり。こちらは初めての試みなのでアドバイザー的な参加。子供が誕生仏に甘茶を注ぐあいた、ドラハチで賑やかしている、子供らがハチに興味津々。そのウチ...ジャン! ジャラジャラ...とハチが回ることに、「おお!!」と驚嘆の声を上げる。調子ほって、また返すと「すていっ!!」と拍手が起きる。やがて大声振の喝采へと変わり、スター気分に浸れた私だった。やわらぎ保育園一周年!オメテウゴザイマス。

やわらぎ保育園

